

あいち産業科学技術総合センター 2018年12月号 食品工業技術センターニュース

- 今月の内容
- トピックス
 - 報告「中国政府による日本の若手科学技術関係者招へいプログラムに参加して」

トピックス

- 当センター職員が学会にて研究成果を講演・発表しました。

	演 題	発表者	大会名	期 間
	乳酸菌スタータを利用した溜醤油のアミン低減化	間野博信	日本食品科学工学会中部支部大会	H30.12.15

- メッセナゴヤ2018に出展しました。

平成30年11月7日から10日まで、ポートメッセなごやにおいて「メッセナゴヤ2018」が開催されました。幅広い業種、地域から出展があり、出展者と来場者相互の取引拡大、情報発信、異業種交流を図る展示会です。この展示会の「知の拠点あいちブース」において、「シンクロトロン光の清酒製造プロセスへの活用」、「乳酸発酵おからとあいちの伝統野菜を活用した新規ドレッシング」の紹介を行い、多くの来訪者がありました。また、当センターの依頼試験の紹介も行いました。当センターでは、今後も各種展示会に積極的に出展し、研究成果の普及に努めるとともに、企業の製品開発の支援に努めてまいります。



展示ブース内の様子



乳酸発酵おからとあいちの伝統野菜を活用した新規ドレッシング

催事詳細については、メッセナゴヤ2018のホームページをご覧ください。

<https://www.messenagoya.jp/>

「中国政府による日本の若手科学技術関係者招へいプログラム」に参加して

1. はじめに

平成30年10月22日から27日の6日間、「中国政府による日本の若手科学技術関係者招へいプログラム」に参加し、北京市および合肥市を訪問しました。一部ですが、その内容について紹介したいと思います。

2. 本プログラムの経緯と目的

科学技術振興機構（以下、JST）は平成26年度より「さくらサイエンスプラン」を開始し、アジアの青少年を日本に招待して科学技術分野での交流を深めてきました。本プログラムはさくらサイエンスプランを高く評価した中国政府により平成28年度から実施されてきました。参加者は中国の大学・研究機関や企業を訪問し、中国のイノベーションの現状に触れ、政府関係者及び若手研究者と交流する機会が得られます。これにより、日中友好と科学技術分野における両国の発展に貢献することが本プログラムの目的です。本年度は科学技術や国際化に関する業務に従事する中央省庁、地方自治体、大学や研究機関の職員、約150名が招へいされ、私もその一人として参加しました。

3. 主な訪問先の紹介

北京大学

1898年に創立された中国初の国立総合大学です。4万人を越える学生が在籍しており、留学生の受け入れや国外の大学、研究機関との交流・連携に積極的に取り組んでいます。教育と科学研究において国際的にも高い評価を受けています。訪問時には、若手研究者から同大学で開発している自動運転システムや新規半導体技術について説明を受け、交流することができました。

中関村サイエンスパーク

中国のシリコンバレーとも称される中国初の国家ハイテク産業開発区であり、特に、人工知能（AI）、新素材、バイオ技術等の分野において大きな成功を収めています。北京大学や精華大学をはじめとする大学や研究機関、国家級重点実験室、ハイテク産業が集積しており、イノベーション資源に恵まれた環境が整備されています。パーク内には起業に必要な手続きが一か所で行え

る施設があり、アイデアさえあれば簡単に起業できるような厚いサポート体制が構築されていたことに驚きました。

株式会社科大訊飛（アイフライテック）

1999年に発足した安徽省合肥市に拠点を置くベンチャー企業です。スマート音声およびAI技術において、最先端の技術力を有しています。日本英語検定協会が2019年度から通常採点と並行して、アイフライテック社の技術を利用したAIによる自動採点を導入すると発表し、日本でも話題となりました。同社の技術について説明を受け、実際に製品を体験することができました。こどもの頃にテレビや映画で見た未来が現実になりつつあることに驚き、中国の科学技術の目覚ましい発展に触れることができました。

中国科学技術大学先進技術研究院

安徽省、合肥市、中国科学院、中国科学技術大学が共同で設立した研究機関です。四者協力の下、新規通信技術、新エネルギーシステム、マイクロ・ナノ技術、バイオマス利用分野において成果を挙げてきました。約200社のベンチャー企業を輩出し、19の国家級ハイテク企業を育成してきました。ほぼ無限に利用できるクリーンエネルギーとして期待されている核融合発電の開発において、世界をリードする成果を挙げています。核融合発電の実用化により、電力供給の無償化を目指すという壮大な計画を伺うことができました。

4. プログラムへの参加を終えて

本プログラムを通し、中国の科学技術の発展に触れ、その発展を支えてきた取り組みについて理解を深めることができました。特に中国はイノベーション資源の集約、国内外からの優秀な人材の確保、他機関との積極的な連携に力を入れており、私たちも見習うべき点が多いと感じました。本プログラムで得た知見を業務に活かし、成果を県政に還元していきたいと思います。また、本プログラムでは中国の科学技術分野だけでなく、文化、人、生活に触れることができ、中国の現状について理解を深めることができました。日中両国の相互理解および発展に微力ながら貢献できるよう尽力して

いきたいと思います。

最後に、本プログラムを企画頂いた中国科学技術部ならびに訪問先機関の皆様、参加者の様々な手続き、引率をしてくださった JST の皆様に心より感謝の意を表します。



訪中団メンバーの集合写真



歓迎レセプションの様子



北京大学において開発中の自動運転システムの説明



中関村サイエンスパークの成果物展示場



アイフライテック社の AI 技術の説明



中国科学技術大学先進技術研究院の成果物展示場

発酵バイオ技術室：間野博信

研究テーマ：豆味噌、溜醤油の高品質化技術の開発

担当分野：味噌、醤油などの醸造食品の製造技術

編集・発行

あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター 平成30年12月17日発行

住所 〒451-0083 名古屋市西区新福寺町 2-1-1

TEL(直通) 総務課 052-325-8091 発酵バイオ技術室 052-325-8092

分析加工技術室 052-325-8093 保蔵包装技術室 052-325-8094

FAX 052-532-5791

URL: <http://www.aichi-inst.jp/shokuhin/> E-mail: shokuhin@aichi-inst.jp

フルカラーの web 版センターニュースはこちらから→

